

# 佐渡米通信

# こめる

2024年 3月号

発行日:2024年3月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)  
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

## GAPへの取り組みについて

JA佐渡では、同管内10農場と1集出荷施設を合わせたASIAGAP団体認証を令和元年に取得しています。GAP (Good Agricultural Practices)とは商品安全・環境保全・労働安全の3つを確保しつつ、人権福祉や農業運営を適切に管理していることを外部に示す枠組みの1つです。2月初旬に行われたJA佐渡ASIAGAP研究会では、株式会社佐渡相田ライスファーム代表取締役相田忠明氏が講演してくれました。同社では、GLOBALG.A.P.、有機JAS (BIO)を取得しており、ヨーロッパ、アジアにお米を輸出しています。更に販路を広げ、佐渡米全体のブランド向上を目指していると語られていました。

JA佐渡は、ASIAGAP団体認証取得の支援を通して持続可能な水稲経営に繋がることを期待しています。



講演の様子

## 佐渡の米農家さんにインタビュー

両津地区の株式会社野浦情報局の代表取締役 白杵秀昭さんにインタビューさせていただきました。半農半漁を生業に、地域の伝統芸能「文弥人形」を守る双葉座や地域の宮司、漁協の理事なども務めています。平成26年に地域の農業を守る活動として起業し、標高430mまで続く約3haの棚田を管理しています。先人が築いた農地を次世代に繋ぎたいと約10年前に起業されました。毎年、取引先が主催する消費者の方との交流会では、白杵さん率いる双葉座が文弥人形の上演会を行っています。そうした場で「農業を守り、伝統芸能を守っている人たちが変なお米を作るわけがない」という声を頂いたそうです。伝統芸能は集落の方たちの団結を育む場ともなっており、斑点米の原因であるカメムシ対策を行うために、集落の皆で一斉に田んぼの畦畔の草刈りを行うことが恒例となっているそうです。効果を高めるために一致団結しているところに感銘を受けました。

JA佐渡では、野浦集落をはじめとしたトキの保護地から生物多様性の取り組みを佐渡全域へ広げてきました。今後とも生きものに配慮したお米作りを続けて参ります。



白杵さんの大好きな海が眺められる棚田の圃場



リモートで消費者と交流する白杵さん



消費者交流会で双葉座の文弥人形上演会の様子



白杵さんが神主を務めるトキ神社



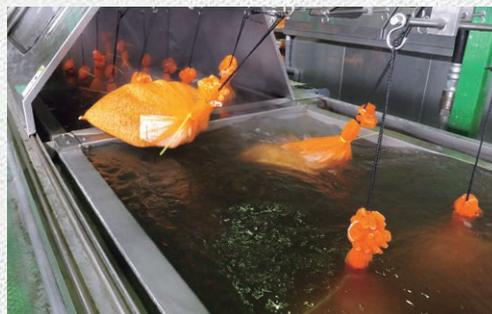
トキ神社のお守り



株式会社野浦情報局の看板

## 農薬を使わない水稲種籾の消毒方法「温湯消毒」

JA佐渡では農薬・化学肥料を減らした米作りをするため、環境保全に配慮した種子消毒する方法を採用しています。



水稲に感染する病害の多くは種もみに潜んでいるため、播種前に60℃のお湯に浸けます



処理後乾燥し、各生産者には2月末から3月上旬にかけて配付されます

温湯消毒

春耕転

苗づくり

田植え

水管理

中干し

穂肥

稲刈り

秋耕転

ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO